

平成3年度 和歌山県文化功労賞

さ はら あきら
佐 原 光

住 所：和歌山県有田市

出 身 地：和歌山県有田市

生 年：昭和5年

◎業績及び経歴

県立桐蔭高校在学中、木下克巳、中村善種両画伯に出会い、絵画の道を歩み始める。

昭和27年同校卒業後上京し、阿佐ヶ谷洋画研究所でデッサンを学ぶ。

昭和34年、29歳で独立展に初入選後、毎回入選。35歳頃、抽象画から具象画に転向し、裸婦の群像を連作した。昭和43年に独立展独立賞、昭和44年に独立展奨励賞、昭和45年に独立展独立賞と受賞を重ねた後、昭和47年独立美術協会会員に推挙され、美術界での活躍の足場を確立した。

昭和48年には和歌山県立近代美術館で第1回個展を開き、翌年渡欧。パリに2年間滞在し、アカデミーゴエツに学ぶかたわら、スペインのアンダルシア地方を取材。帰国後の昭和53年、大阪三越で「アンダルシアの旅」と題した個展を開催した。

その素朴な画風が認められ、昭和54年、安井賞展に出品。国際形象展にも昭和54年以来、数回招待出品している。

ここ数年、画材を紀伊半島の自然に求め、大画面による風景画の世界を探求し、平成2年なんば高島屋で「紀伊半島の自然を描く」展を開催した。

又、和歌山県美術家協会、和歌山独立美術クラブを通じ、後進の指導や和歌山県の美術文化の向上に尽くしている。

■現在

独立美術協会会員

和歌山県美術家協会副会長

和歌山独立美術クラブ代表

和歌山県展審査員